もっと自然を楽しもう

創世記１：31

私は長崎県と佐賀県が大好きです。その一つの理由は、豊かな自然が残されていることです。人間は自然の中に生きてこそ、人間らしい喜びと平安と満足を感じられるのです。神様はご自分がお造りになった完全な自然をお喜びになり、それをとても良いと判断されました。人間もまたその自然の一部なのです。自然を離れ、自然に馴染むことが少なくなった人間の精神は、どこかで崩れかけ、様々な軋轢を生みだしています。

Ⅰ．　神様がお造りになったことを確認する　何気なく自然を見るのではなく、これは神様がお造りになったものだと、意識しながら見ましょう。ただ美しいというのではなく、神様が美しくお造りになったと確認するのです。ただ美味しいというだけでなく、神様がおいしく造ってくださったのだと、確かめるのです。神様はこの自然をすべてが良いとされたのです。現在は人間のお罪のために自然も破壊され、捻じ曲げられてはいますが、まだまだ素晴らしい姿を留めています。そして私たち人間が完全に造り変えられるように、自然も完全に造り変えられえるのです。

私たちは自然の一部として、自然と調和して生きることによって、より良い生き方ができ、より安らかに充実した暮らしができるように造られているのです。自然の中にいると自分が解放されたように感じ、癒されていくような思いをします。静かな音楽を聴くと心が休まるように、小鳥のさえずりを聴くとすがすがしい気持ちになるように、美味しいものを食べると楽しくなるように、自然の中にいると、人間はおのずとゆったりとするようにできているのです。そのような中で、力いっぱい神様を賛美するのです。感謝と喜びをもって、賛美をするのです。自然は神様の御手の業を現わすもので、神様の大きさを現わし、力強さを現わし、繊細さを現わし、美しさを現わし、多様性を現わしています。

２．　人造物の中では心が休まらない人間　現代人の生活は、人造物の中での生活になっています。人造物の中では、人間は命を感じません。人造的な美しさもあり、技術に対する驚きもあります。でも周りすべてが無機質なものにとり囲まれると、人間は異質なものの中にいると感じます。有機物の中にいるしっとりとした、フィット感がないのです。命を感じないからです。その背後に神様も感じません。神様を崇める気持ちも、祈る想いも起こらなくなってしまうのです。そうすると人間の心は、ますます殺伐としてしまいます。コロナ禍の中ですが、積極的に自然の中に出て行きましょう。

人間は AI を駆使して人形ロボットも造ることができます。動き回り知識を増す動物の模型も造ることができ、ある程度の感情移入もできることでしょう。オフィスや病院、あるいは老人施設などで、そういう先端技術のロボットは活躍するようになるでしょう。それはそれで良い

ことです。でもそれは人間の不足を補う物であって、人間の代わりにはなれません。たとえ、言葉の受け答えも仕事も完全であっても、人間の心と心を通わすことは困難なのです。それは命ではなく、神様に創造された自然ではないからです。それらはあくまでも、補佐的なものにとどまらなければ、人間性を壊してしまいます。たとえ、人間が一時的な勘違いで、心を通わした気持ちになったとしても、明らかに違うのです。

今は美しい人造の花が売られています。本物と見分けがつかないほどですし、触感も同じ、おまけに香りまでついています。でも、やはり本物がなくなることはありません。水を与え、温度に気を付けなければならないのに、やはり造花では満足できないのです。そこに命があるかないかの違いです。神に造られた自然があるかどうかです。だからこそ、殺風景な人造のオフイスの中に、生きた花を置きたくなるのです。自然は人を和ませるのです。

３．　人間が手を加えない自然を楽しむ　おなじ自然でも、人間が手を加えた自然と、人間の手がまったく加えられていない自然があります。より多くの人に喜ばれる色、形、味、香り、大きさ、取り扱いやすさなどを作り出すために、様々な改良が重ねられてきました。人間にとっての改良は、多くの場合、その自然自体には改悪であることを、知らなければなりません。植物としても、動物としても、人間の手助けがなければ、生存できなくなってしまいます。植物自体には手が加えられていなくても、山全体が人造林になって、自然を破壊してしまっている場合もあります。杉林や檜林が良い例です。単略的な水の管理も問題です。いま世界中で、無理に地下水をくみ上げて農耕に使ったために、塩害が起こり、広大な不毛地帯を生み出しています。

神に創造された自然は、人間の管理にゆだねられました。（創 1：28）しかし人間は暴君のように自然を従わせようとし、破壊してきた歴史があります。自然の理を無視するのではなく、自然の理を通して治めるようにしなければなりません。その点、多くの日本人の感覚は、自然を従わせるよりも、自然と共に生きるということです。私たちはそれを喜びましょう。喜ばねばなりません。それでもついつい、自然に強要し、あらあらしく折り曲げてしまっています。自分も自然の一部だと改めて確認して、自然と共に、自然に生きましょう。

牧師がかねがね主張してきたように、自然環境を守って生き残ろうとするなら、自然を破壊し続けている資本主義経済を終焉させ、新しい経済の仕組みを作らなければなりません。飽くなき富の追求が、自然を破壊し続けているのです。新しい経済の仕組みができなければ、地球が人間の住めないところになる前に、神の介入、万物の造り変え、贖いの時がなければなりません。

４．　自然が贖われる日を待つ　自然を大切にしてこそ、自然が贖われる日、つまり、完全に造り変えられる日を、待つ心につながります。神は、今破壊され捻じ曲げられ痛めみつけられている自然を、「見よ。すべてがはなはだ良かった」と言われたあの天地創造の直後の自然のように、完全な物に造り変えて下さるのです。キリストの贖いは自然界にも及ぶのです。私た

ちはそれを望みましょう。
　神様は永遠の御国の自然を、最も美しく完全にしてくださいます。使徒ヨハネは、その中にある都の素晴らしさを表現して、
「ガラスのように透き通った純金や、いろいろな高価な宝石でできていると語っていますが、荒野に近い土地に住んできたユダヤ人と、緑豊かな国に暮らしを立てて来た日本人とでは、おのずと違う感覚になるのでしょすね。同じすばらしさを見せられ表現させられても、日本人なら、金だとか宝石だとか言わずに、緑の山、色とりどりの花咲く野原、白い雲に向かって飛ぶ鳥たち、そして虫たちの奏でる音楽などを、持ち出すのではないでしょうか。
　永遠の御国には川があるようですが、川底も護岸も金でできているよりも、緑で覆われ、たくさんの魚が泳いでいる方が、少なくても、私にとっては良いように思います。魚釣りもできそうです。御国では殺傷はご法度ですか？ そう言えば、海釣りは出来ないかも！！ なぜかというと、海はなくなってしまったとヨハネは言っているからです。でも、この表現は文字通り海が存在しなくなるという意味ではなく、怖いもの、恐れるべきものがなくなるという意味ではないかと、牧師は自分に都合よく解釈しているのです。ヨハネの当時、海は恐ろしい物という、概念があったと考えられるからです。

　何はともあれ、自然に親しみ、自然を楽しみ、自然をお造りになった神様を想い、神様の素晴らしさを賛美していきましょう。それを神様は喜び、祝福を加えて下さるのです。